

市政に対する

一般質問



IoT電球を活用し独り暮らし高齢者の見守りを

公明党 井上 賢二

●高齢者支援について

●電球の点灯や消灯が長時間続く、登録先の家族などに警告が通知されるIoT電球を活用し、独り暮らし高齢者を見守らないか。

●実施中の緊急通報システム事業では、行動センサーの設置が可能であるが、IoT電球も追加可能か、委託先と調整していきたい。

●IoT、AIを活用 市民サービス向上について

●市役所窓口の混雑状況を市ホームページ上に表示できないか。

●年末年始などの混雑しやすい時期は、職員の重点配置など、混雑緩和対策を行っている。今後は、事前に混雑する曜日や時間帯を広報などで周知するとともに、インターネットの活用も研究したい。

●SDGsの取組について

●生ごみの処理では、一斗で絞って1億円、両手で絞って3億円」という水切り標語をつくり、ごみ処理費の削減を訴えることで地域に共感が広がった事例がある。本市でも水切りの必要性を啓発できる標語を考えないか。

●山梨県の団体がつくった標語と認識している。生ごみの水分量が多い夏の時期などで啓発しているが、親しみのある標語は印象的な啓発の効果も期待できるため、この例を参考に検討したい。



『道の駅』事業計画地の見直しと今後の考え方は

創政会 武藤 俊宏

●『道の駅』の現状と方向性について

●令和5年度末の開業を目指し事業を進めてきたが、現計画地での事業中止を公表した。中止に至った経緯などは。また、今後の事業をどのように考えているのか。

●過去の空中写真で、農地以外であった箇所においてボーリング調査を行い、埋設物を確認した。除去などには多額の費用が想定されるなど地権者との合意が困難と判断し、計画地の見直しを決定した。また、道の駅は持続可能なまちづくりの実現に必要な事業であり、4年度中には新たな事業計画案を提案したい。

●綾瀬市役所周辺市街地の再編について

●旧消防跡地は公有地であり、市民にとって必要な施設を区域の開発に取り入れていく必要がある。公共性や独自性を考慮した事業活用を考えるべきではないか。

●事前の民間事業者への調査で、公共施設との複合化は自由度が下がるとの意見があり、商業エリアとして民間企業での活用を考えている。

●図書館や文化センターなどの工事期間中における、利用者への影響や対応は。

●改修の場合は安全確保し、なるべく不便とならないよう行う。建て替えの場合は休館も考慮し、早めに計画公表し、利用者の理解を得たい。



コロナ後を見据えた令和4年度予算編成方針を

創政会 青柳 慎

●新年度予算編成方針と諸課題について

●新型コロナウイルス感染症の影響による減収など、令和4年度も厳しい財政運営が予想されるが、コロナ後を見据えた予算編成方針は。

●既存事業の手法や規模を見直し節減に努め、優先施策に重点的に配分できるように編成作業を進めている。

●中心市街地活性化では、改修や建て替え、移転など図書館の位置付けが見えないが、現在の検討状況は。

●市民と関わりが強い施設であり、将来あるべき図書館像を検討している。まずは場所ではなく図書館の内容を決定したいと考えている。

●4年度から開設予定である、各学校ホームページの取り組み方針や進め方は。

●学校活動などの発信手段として導入するもので、学校と協議し、安全マニュアルの作成を進めていきたい。

●コロナ禍での中小企業支援策について

●売り上げが大きく下がった中小企業への支援として、独自の補助金や助成金を支給する施策を検討しては。

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。12月定例会では、12月10日・13日・14日の本会議で16人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、5ページまで続きます)。

詳しい内容は会議録・HPで

市議会だよりは、紙面の都合で発言の一部を掲載しています。詳しくは、市役所内情報公開コーナー、市立図書館、市議会に備えてある会議録をご覧ください。また、インターネットでも、会議録の閲覧や検索ができます。

なお、12月定例会の会議録は、2月下旬に閲覧できる予定です。

綾瀬市議会 検索

